

## きゅうりこれからの管理

### 【雨除け胡瓜について】

ハウス内の乾き過ぎに注意し灌水を行っていきましょう。ベット灌水だけでは不十分な場合は通路灌水を行って下さい。また、草勢維持のためハウス内の高温状態を避けるために換気の徹底を行って下さい。

整枝作業につきましては枝の伸びが良い場合、混み合うようになってきますので、摘芯・摘葉作業はこまめに行なっていきましょう。混み合い過ぎている場合は摘葉を優先に管理し通気性の良い状態にして下さい。

灌水間隔につきましては圃場が乾くようであれば毎日、場合によっては1日2回（朝、夕）行ないましょう。追肥につきましても同様に灌水時には毎行なうようにして下さい。朝夕2回行なう場合には、追肥は朝行なうようにしましょう。

### 【露地胡瓜について】

露地の場合も晴天が続くと圃場内は乾燥してきます。十分な灌水を行っていきましょう。逆に、雨天が続いたり大雨により圃場内が灌水状態になった場合、排水が悪い状態であると根腐れを起こす可能性もありますので、排水対策も行なって下さい。

整枝作業につきましては混み合うところを中心に摘葉して行きましょう。ただし、側枝については摘み急がないようにして樹勢の維持をして下さい。

灌水につきましては、圃場内が乾くようであれば毎日行ないましょう。追肥についても灌水と同時に施用して下さい。また、通路に置肥を施用するのも効果的です。

### 【抑制胡瓜について】

早い方は定植時期になってきます。定植前には十分な灌水を行ない、根鉢部分が乾かないように手灌水を行いましょう。また、定植後萎れが激しい場合は通路散水・葉水を行い、それでも改善できない場合は蒸散抑制剤の使用も検討して下さい。

太陽熱消毒を行なった方については、最低定植7日前にはマルチを剥いておきましょう。

ハウス内も高温になりますので、換気の徹底を行いましょう。

○葉面散布・発根剤の使用を定期的に行い草勢の維持に努めて下さい。

パワフルグリーン2号	500～1000倍	RBパワー	10a/2リットル
メリットシリーズ（青・黄・赤）	300～400倍	夢	10a/5リットル
ベストII	500～1000倍		

○定植後、どうしても萎れがひどい場合。蒸散抑制剤の使用を行う。

プロテック	蒸散抑制効果として～	200～300倍（単剤使用）
	展着剤として～	500～1000倍（農薬混用可）

### 【農薬防除について】

病害虫の発生が多くなってきます。特に害虫につきましては、ウイルスを媒介するアブラムシ・スリップス・コナジラミを重点的に防除しましょう。

また、作付終了後は雨よけ栽培につきましては蒸し込み管理、露地栽培につきましては農薬による重点防除後、速やかに片付けすき込みを行って下さい。

作付圃場周辺及び本圃周辺の雑草の除草対策も同様に定期的に行いましょう。

雨除け栽培の方で収穫が終了される方は、収穫終了前には重点防除を行ない必ず蒸し込みを行ないましょう。

露地の方は、終了前には重点防除を行ない終了後は速やかにすき込みを行いましょう。

## 御協力下さい

今年も昨年同様、7月～9月までの期間、毎月15日を目安に圃場周辺の定期除草を実施して頂きますよう、御協力の程よろしくお願い致します。

## 果樹園の管理(7月)

生産者の皆さん毎日の作業お疲れ様です。気温も高くなってきますので管理を充分に行い、病害虫の発生にご注意下さい。

### 1. 日向夏の管理

#### (1) 水管理

夏季に乾燥が続く場合や、傾斜地・耕土の浅い土地などの乾燥しやすい園地では定期的にかん水を実施して下さい。また、かん水設備の無い園地は、梅雨明け前に敷きワラ、敷き草を行い土壌の水分蒸散及び養分の流出を防ぐ様にします。

土壌が乾燥状態となると、果実肥大が不良となりホウ素欠乏等の微量元素欠乏も発生しやすくなるので注意が必要です。

#### (2) 葉面散布の実施

品質向上、果実肥大のため、葉面散布を実施します。

品質向上…パワフルグリーン 2号(8月まで) 800倍

#### (3) 夏季剪定

剪定が不十分な園地では補足的な剪定を実施します。方法は内部まで十分に光が当たるように間引き剪定を行って下さい。太い枝の切口については処理を行って下さい。アルミホイルを被せておくと新梢の発生を抑えることが出来ます。

#### (4) 病害虫防除

8月より袋掛けを行います。袋を掛ける際はハダニの防除を徹底しましょう。

	対象病害虫	使用薬剤	使用倍数	収穫前日数
1回目	ハダニ チャノホコリダニ	コロマイト(水)	2000	7日前
5日間空けて	コナカイガラ 黒点病	スタークル(顆粒) ペンコゼブ(水)	2000 600	90日前
2回目	ハダニ	ダニエモン(フ)	4000	7日前

※コナカイガラ防除は必ず実施します。

### 2. スイートスプリングの管理

#### (1) 病害虫防除

スイートスプリングは毎年、かいよう病、黄斑病等の被害が出ています。そのため、予防散布は必ず実施して、発病を抑えましょう。

台風通過後は多発生の恐れがありますので必ず前後に散布して下さい。

病害虫名	使用薬剤	使用倍数	使用方法
かいよう病	Zボルドー	500倍	混用散布
	クレフノン	200倍	

### 3. 台風対策

これから台風の時期となります。事前に対策を行い、被害を抑えましょう。

- 対策—
- ・排水溝や土どめ対策を整備し、階段の崩壊や土砂の流出・流入を防ぐ。
  - ・幼木、若木や高接ぎ樹などは太い竹で支柱を立て結束する。
  - ・防風林の補強手入れを行う。
  - ・台風通過後はかいよう病等の防除を実施する。

※農薬の使用については、使用基準(摘要作物、使用倍数、使用回数、収穫前使用日数等)を守り近隣作物への飛散にも十分注意して散布して下さい。

連絡先……果樹農産課 電話 77-2216

## 露地野菜生産者のみなさまへ

毎日暑い日が続く、収穫作業や作付け等、農作業も大変な事と思います。

ここ数年の暖冬による害虫の激発、冬から春の乾燥、今年は梅雨からの大雨続きよる日照不足等で病害が多く見られています。これからまた、気象災害が多く発生する季節になりました。集中豪雨、猛暑、干ばつ、台風などそれぞれの対策がありますので、被害を最小限に食い止められるような管理を行ってください。

高温・乾燥が続くと害虫の発生が多くなり、また肥料の吸収ができなくなり肥料欠乏が発生します。かん水できる圃場ではかん水ができるように準備を行ってください。(夕方からが効果的です)

### <栽培管理について>

- ・排水溝の整備を行い、水はけを良くしてください。
- ・高温・乾燥が続くとアブラムシ、スリップス、ダニ、ヨトウムシ等が発生します。予防策を徹底してください。

アブラムシ ⇒ シルバーテープの設置 (キラキラ光る事で寄せ付けない)

ヨトウムシ ⇒ フェロモントラップの設置 (雄の成虫を捕獲することにより繁殖を防ぐ)

※2ヶ月に1度フェロモンを交換してください。

ダニ・スリップス ⇒ 葉に付きますが、樹勢が良ければ生育を阻害されことはありません。

※高温・乾燥により害虫は多く発生しますので、畑かんがある圃場ではスプリンクラー等で散水し、乾燥を防ぐと発生が抑えられます。

### ・里 芋・

里芋が最も肥大する時期に晴天日が続くと土壌が乾燥し、水分不足となります。里芋は乾燥害を受けると収量が激減し、品質の低下も大きいので、かん水可能な場所では5～6日間隔でかん水を行ってください。

ヨトウムシ・アブラムシ・ダニ等の発生が多くなります。発生が見られる前の予防策を行って下さい。(産直契約出荷分は農薬の使用はできません。)

産直契約分は、8月下旬から収穫出荷が始まります。石川早生は、8月末が収穫適期になるため収穫が遅れると品質低下の原因になります。(割れ芋の発生等)

### ・白ネギ・

高温・乾燥により害虫の発生が多く見られます。予防策を徹底して下さい。定植後40～50日が初期生育旺盛な時期ですので、土寄せと一緒に追肥も行うようにして下さい。第1回目の土寄せから20～30日間隔で、除草作業も兼ねて土寄せを行うようにして下さい。

除草が遅れてネギが軟弱しているところなどは台風や大雨の被害を受けやすくなります。樹勢を強くするように今のうちに準備してください。

葉先が白くなっているのは乾燥とスリップスとされます。かん水で防げます。気温の高い時期に生長させましょう。

白い部分が25cmになるように取組んでください。

品種によって栽培方法が異なります。御注意ください。

## ・夏捲き人参・

播種日は収穫出荷に影響がでますので、指定された期日内に必ず播種を行ってください。人参の発芽は天候に大きく左右されます。土壌が乾燥していると発芽率が低下し、生育も不揃いになるので、土壌水分を確保してから播種を行ってください。播種後の覆土は浅くし、軽く鎮圧して下さい。高温乾燥による発芽不良・生育不良が多いため、夕方から夜間のスプリンクラーによる散水を実施して下さい。高温が続く場合は、気温の下がる夕方からの散水や播種が良いようです。また、雨が多い場合は排水溝を整備し、圃場外に排出して下さい。

**播種や定植は、午前中や暑い日中を避け、夕方行いましょう。地温が上がっていく時に行うと、根傷みを起こす原因となります。できるだけ土壌水分を確保し、活着を促進してください。播種後のかん水ができるところは積極的に行いましょう。**

## ＜秋冬の作付の前に土壌分析をしましょう＞

土壌にあった施肥を行うために、土壌分析を行ってください。簡易施設（雨よけハウス）では、作付けをする前には必ず土壌分析を行ってください。土壌中に残っている肥料を確認し、適切な施肥を行ってください。過剰による病害の発生、養分吸収の阻害など問題がありますので、必ず分析を行ってから施肥をするようにしましょう。分析には、最低2週間かかりますので、早めの提出をお願いします。詳しい内容は開発センター、または果樹農産課まで。

## ＜露地振興会会員のみなさまへ＞

露地振興会では、かん水用のスプリンクラーを導入しています。水田用の吸水ポンプもありますので、露地振興会会員の方は是非ご利用ください。

使用料（10 a、1日当り）：スプリンクラー	300円
吸水ポンプ	200円

露地振興会会員のみ利用できますので、利用受付は果樹農産課までご連絡ください。（H23年度の賦課金を納入された方が対象です）

## ＜年に一度は緑肥作を！！＞

ソルゴの『つちたろう』や、クロタラリアの『ネマキング』がセンチュウ抑制に効果があると言われていますが、圃場によってはセンチュウよりも他の被害があるのではないかと思います。じゃがいもに出る「ジャガイモそうか病」は、土壌消毒以外に手はないと言われていましたが、エンバクの『ヘイオーツ』が、ジャガイモそうか病抑制効果があるといわれています。春にじゃがいもを作付し、そうか病があった圃場では、ヘイオーツの作付を推奨します。作付期間はソルゴと同じで60日前後、草丈80cm～出穂始頃がすき込み適期です。播種量は10 aあたり10～15kgのバラ播きです。

作物の根に「こぶ」や「亀裂」、あるいは「線」などが発生していたら必ず緑肥を作付けしましょう。詳しくは、果樹農産課までお問い合わせください。

問い合わせ先：果樹農産課 77 - 2216